

# 授業アドバイスシート

## 【小学校共通】

◇ 「めあて」や「振り返り」を意識して学習を進めましょう

### 1 正答数別の児童数の割合からみた愛知県の状況と課題

棒グラフ・・・愛知県

折れ線グラフ・・・全国

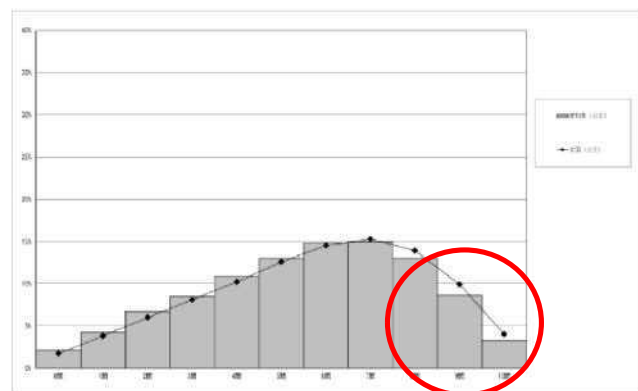
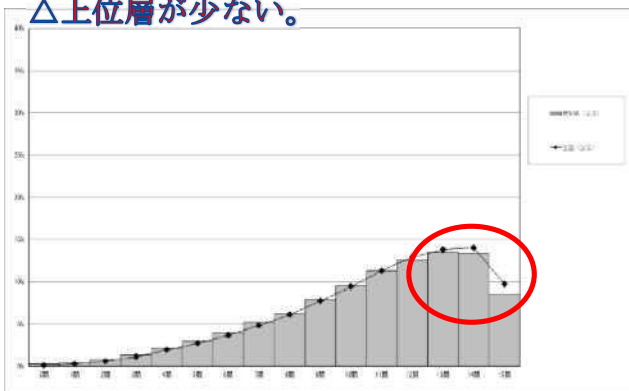
#### 小学校国語A（知識・技能）

#### 小学校国語B（活用）

○基礎・基本が定着しつつある。

△上位層は少なく低位層が多い

△上位層が少ない。



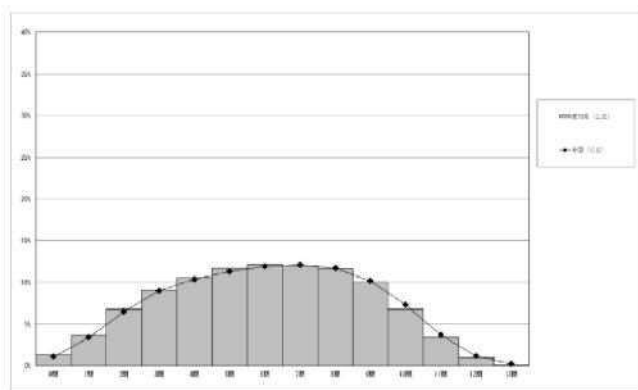
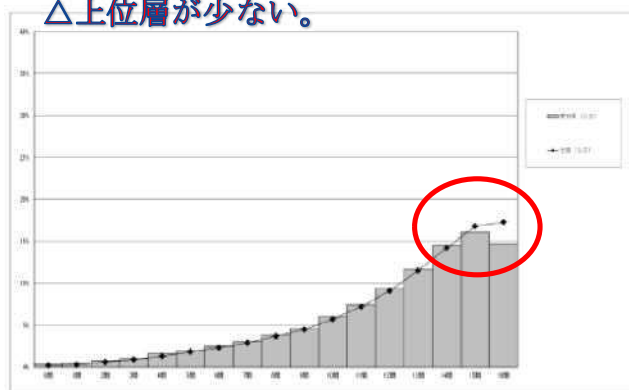
#### 小学校算数A（知識・技能）

#### 小学校算数B（活用）

○基礎・基本が定着しつつある。

△個人差が大きい

△上位層が少ない。



分布グラフの赤実線で囲んだところが全国との差が大きい箇所です。国語A・B、算数A・Bで、全国と比較で上位層の数が少ないことがわかります。アクティブ・ラーニングの視点にあるように、主体的で対話的な学習を通して、思考力・判断力等の力を高めていくことが大切となります。

また、個人差が大きく低位層が多いことから、基礎・基本の定着を大切に、「めあて」を明確にして学習の見通しをもたせ、「振り返り活動」をしっかりと行うことで学習の定着を図ることが大切です。

これまでの調査で明確になった課題や子供たちのつまずくポイントを分析し、日々の授業の中で取り上げ重点的に指導することで、全体の底上げを図る必要があります。

## 2 研究推進地区の実践から

### (1) 稲沢市（学力定着実践研究推進地区）の実践

#### ○ 研究授業の指導案は、板書型指導案で【資料1】

授業者は、実際の授業を予想し仮想の板書をする事で、学習の流れを確認します。また、本時の目標を達成できるように、子供たちの実態や学習内容に即した「めあて」を考えるようにします。このように指導案作成の際に板書やめあてを明記することが大切です。

段 (分)	つかむ (8分)	調べて考える (13分)	まとめる◎ (13分)	まとめる◎ (11分)
板書計画 (学習活動)				
学習活動と指導上の留意点	1 前時の学習内容を想起する。 ○ 水はどのような場面で使われていたか振り返らせる。 ○ 稲沢市の水の使用量を振り返らせる。 ○ 自分の家の水の使用量を調べてきた児童に発表させる。 2 学校内の水の使用について考える。 ・廊下の流し ・プール ・トイレ ・花の水やり ・飼育小屋 ・調理室 3 本時の学習のねらいをつかむ。 ○ 学校内の水を使う場面の写真を示し、想像しやすくすることで関心を高める。 本時はどこからきて、どこへいくのかを考えよう	4 水がどこからくるのかを考える。 ○ 廊下の流しがどこにつながっているかみんなで知っていることを発表し合う。 ○ 水道管や水道メーターの先まで想像させ、「水の循環」につなげさせたい。 5 水がどこへいくのかを考える。 ○ 水が川や海へ流れ、雨になって再び地上に戻ってくることから、「水の循環」に気づかせる。 ▼ 友達が気づかないことまで発表できた児童を賞賛し合わせたい。 ○ 『いなざわ』P138で「水の循環」について確認させる。	6 本時のねらい「水はどこからきて、どこへいくのか」について、まとめる。 ○ 隣同士で話し合わせ、わかったことをまとめさせる。 ○ 代表で何人かに発表させる。 ○ 本時の学習のねらいについてのまとめをし、ノートに記述させる。 ★ 評価の場面◎	7 本時の振り返りをする。 ○ 本時の学習を振り返り、まとめの文章から、今後に向けての学習問題を見つけさせる。 ○ まとめた学習問題をノートに記述させる。 ★ 評価の場面◎ 8 次時の予告を聞く。 ○ 地図帳を使って水のふるさとについて調べることを伝える。

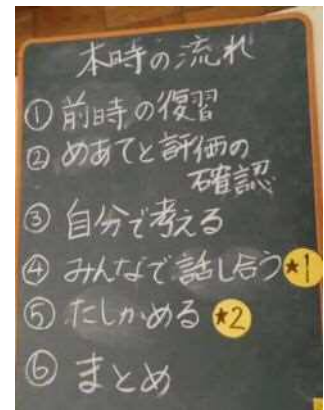
本時の学習課題...

本時のまとめの場面

【資料1】

★ 評価の場面 ▼ 認め合い活動 ○ 指導上の留意点

また、1時間の流れ【資料2】を最初に確認することで、授業の見通しをもつことができます。そして、最後に学習過程の中で考えたことや友達の見地で参考になったことなどを振り返ることにより、学び合いで得たことを今後の学習に生かすことができます。



【資料2】

### ◎ 振り返り活動【資料3】

毎時間、授業の振り返りを行うために、記述しやすいもの、時間がかからないものを工夫する必要があります。自己評価は、◎、○、△など記号で表すようにします。感想は、めあてが達成できたかということの他に、意見を述べ合うところで自分の考えを説明できたか、友達の意見と比べるなど、参考にすることができたかなどの項目を視点として入れておきます。

<振り返りの視点>

- ・ できるようになったこと、分かったことが説明できる。
- ・ 疑問に思ったことや疑問がもてる。
- ・ 他教科や日常生活で生かせることに気付く。
- ・ 授業の中で友達のよい考えや友達のよさに気付く。

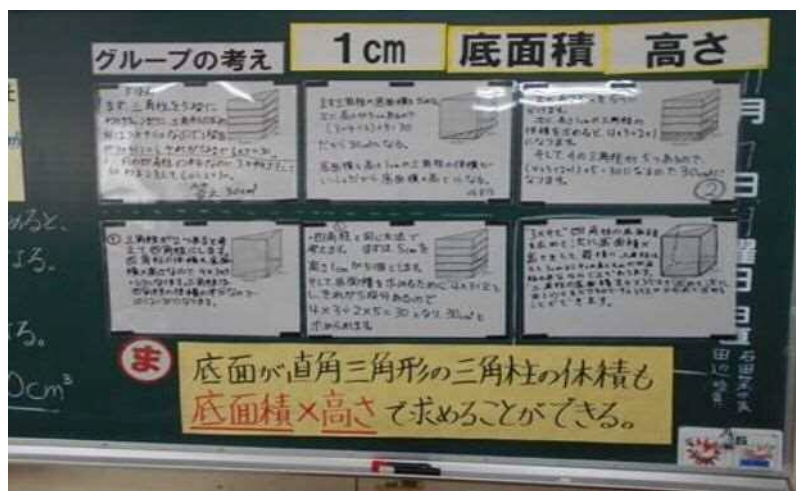
### ◎ 考えを深め合うための活動 ～ホワイトボードを活用して～【資料4】

全国学力・学習状況調査の質問紙の「5年生までに受けた授業では自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」や「5年生までに受けた授業では、友達と話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という質問の肯定的な回答をした児童の平均正答率が高かったことから、考えを発表する機会や話し合う活動を行いながら、考えを深め合うことができるようにホワイトボードの活用を考えました。

#### 手順

- (1) 意見交換の場と時間を確保し、意見を交換し合う。
- (2) ペア又はグループで話し合ったことをホワイトボードにまとめ、提示しながら発表する。
- (3) その発表を基に、さらに学級で考えを深め合う。

ホワイトボードに記入することで、意見を発表するときに発表しやすく、意見を聞く方も視覚で捉えることができ分かりやすいことや、ホワイトボードを黒板に貼っておくことで、意見の共通点や違いが把握しやすい利点があります。



【資料4】

## 6年 算数「10 立体の体積」ふりかえりカード 組 名前

時	めあて	自己評価 ◎ よくできた    ○ できた △ できなかった	感想
1	○ 直方体や立方体の体積について理解しよう。	学習に進んで取り組むことができたか。	
		方体や立方体の体積について理解できたか。	
2	○ 底面が直角三角形の三角柱の体積の求め方を、直方体の体積と関連付けて考えよう。	自分の考えを友達に説明することができたか。	
		自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことができたか。	
		三角柱の体積を、直方体と関連付けて考えることができたか。	
3	○ 角柱の体積は、底面積×高さで求められることを理解し、公式を用いて角柱の体積を求めよう。	自分の考えを友達に説明することができたか。	
		自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことができたか。	
		公式を用いて角柱の体積を求めることができたか。	
4	○ 角柱の体積の求め方を基に、円柱の体積の求め方を考え、円柱の体積を求める公式を用いて体積を求めよう。	自分の考えを友達に説明することができたか。	
		自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことができたか。	
		円柱の体積を求めることができたか。	
5	○ 立体の体積について理解し、確実に計算しよう。	自分の考えを友達に説明することができたか。	
		自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことができたか。	
		いろいろな立体の体積をもとめることができたか。	
6	○ 実験をして、四角錐の体積を理解しよう。	楽しく実験をすることができたか。	
		四角錐の体積の求め方を理解できたか。	

## (2) 知立市（学力定着実践研究推進地区）の実践

知立市では、市の花「カキツバタ」になぞらえて、めざす授業として、知立市学校教育スタンダード「かきつばたー授業の基礎・基本ー」を作成し、このか・き・つ・ば・たの5文字を合言葉に、全市で授業改善に取り組んでいます。

### か 課題（めあて）と振り返り（まとめ）を明確に、授業に見通しを！

子供の学習意欲を高めるためには、「何が分かり、何ができるようになればよいか」という授業の見通しをもたせることが大切です。そこで、その見通しを基に、子供の視点に立った「課題（めあて）」として設定します。そして、何を学んだのかを子供自身が評価する「振り返り（まとめ）」の場を設定することを大事にしていきましょう。

#### 課題（めあて）

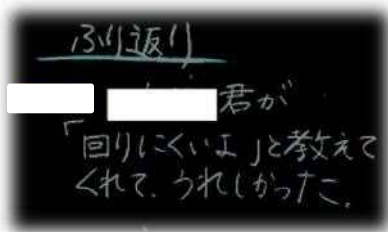
- ①子供につけたい力を意識し、その成長した姿を表現したもの
- ・教材や前時の振り返りから
  - ・既習事項との比較から
  - ・新たな資料や具体物の提示等による疑問から

#### 振り返り（まとめ）

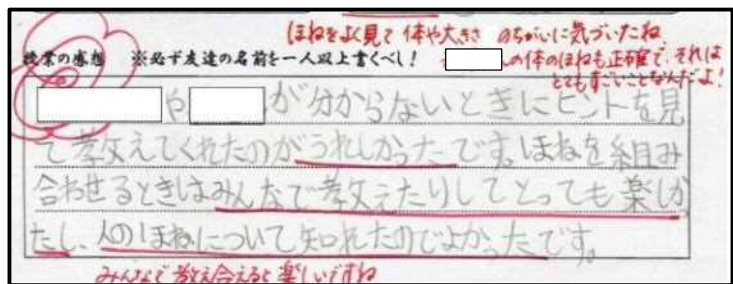
- ①学習を通して分かったこと、できたこと、疑問や次に学習したいことをまとめる
- ・自分の考えの変容を言葉で書く
  - ・必要に応じてキーワードや文型を提示する
  - ・評価カードを活用する
  - ・適用問題や評価問題、時間があればチャレンジ問題を解く

#### 振り返り活動

振り返り活動では、① 授業で学んだこと、② 友達の良さ、③ 何ができるようになったか、④ 成長したと思う点、⑤ 次の目標などを項目立てて学習記録を残しましょう。また、振り返りをみんなで共有させましょう。



【振り返りの共有】



【②友達の良さに視点をあてた振り返り】

評価カードを作成して、毎時間自己評価をさせましょう。

右の評価カードの例は、授業の最後に子供が今日の授業に題をつけて振り返ることをさせています。また、ノートのはじめにつけることで目次ともなっています。

単元名	授業日	題名	自己評価	評価
物質とは...	1/5	ふってら。	B	
	2/6	アセトン登土場	A	
	3/11	水上置換法とは...	A	
	4/12	The☆ドライアイス!	A	
	5/13	無色透明だま〜!	A	

【評価カード】



## き 「聞く」「話す」「書く」学習スキルの習得を！

言語活動の基幹となる「聞く」「話す」「書く」などの学習スキルの習得は、思考力・判断力・表現力を育成する上でとても重要です。そこで、発達段階に応じた学習スキルを明確にし、それらの習得・向上をめざした取り組みを推進しましょう。



### 学習スキルの明確化

学習スキルを明確化することで、その授業で大切にしている友達とのかかわり方を重点的・継続的に指導することができ、子供たちのそれぞれのスキルを効率的に伸ばすことにつながります。

#### <学習スキルの例>

学習スキル	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
聞 く	・話す人におへそを向けて、よく見て聞く ・最後まで話を聞く	・うなずいたり、相づちをうったりしながら聞く	・自分の考えや経験と比べながら聞く
話 す	・みんなに聞こえる声で話す ・「～です」「～ます」で話す	・「○○さんの意見に付け足して」など、相手の話につけ足して話す	・相手の考えに賛成か反対か、はっきりさせて話す ・例を示して話す
書 く	・「誰が」「どうした」のつながりを考えて書く	・まとめりごとに段落をつけて書く	・理由を明らかにして、自分の考えを書く

### 話し合いの場

身近な話題をテーマにして話し合う活動を通して学習スキルの定着を図り、自信をもって発言できる子供たちを育てていきましょう。そうすることで、相手の意見を尊重する良好な子供たちの関係を築くことにもつながります。

#### <テーマの例>

- ・「提供型」：おすすめの本は？
- ・「二択型」：犬と猫、飼うならどっち？
- ・「集約型」：山の学習の班の目標は？
- ・「討論型」：小学生にスマホは必要？
- ・「想像型」：もしも願いが一つかなうなら、何を願う？

### 教室環境の工夫

学習スキルの定着を図るために、授業の心構え・話し方・話型・ハンドサイン・聞き方等を共通理解し、全校で取り組むようにしましょう

右の図に示したように 共通で押さえておきたいことを各学級の前面に掲示して、全ての教科で取り組むことも効果的です。

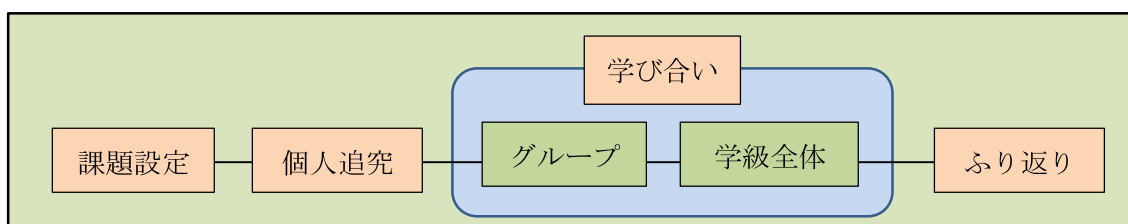


## つ 伝え合い、学び合う授業づくりを！

「伝え合い、学び合う授業」を展開するに当たっては、自由に誰もが発言できる学級の雰囲気づくりが大切です。そして、子供たちが「学びたい」「解決したい」と思えるような課題設定（「か」課題参照）から、個人追究の充実を図り、活発な意見交換につなげるような授業展開に心掛けましょう。

### 学びび合いを取り入れた学習過程

課題に対する個人追究を基に、グループや全体で考え、学び合う場を設定しましょう。



#### <グループでの学び合いの例>

学び合いの目的	学び合いにかかる時間	方法等
考えを伝え、確かめる	あまり時間をかけない (3分～5分)	2、3人のグループで、考えを伝え合い、全体の学びへとつなげる
考えを深めたり広げたりする	ある程度時間をかける (5分～10分)	3、4人のグループで、考えを伝え合い、考えを深めたり広げたりする
考えを深めたり広げたりするとともに、より良い考えを見つける	時間をかける (10分～15分)	3、4人のグループで、考えを伝え合ったり、考えを類型化したりして、より良い考えにまとめていく

### 個人追究の充実

個人追究で一人一人の考えを明確にできれば、話し合いの充実へとつなげられます。そこで、追究の充実を図るために、次の例のように意図的な机間指導を行いましょう。

#### <机間指導の例>

- 判定型 : 「あっているか」「AなのかBなのか」をチェックする
- 価値付け型 : 根拠を明確にして良さを伝える
- 触発型 : ヒントを伝え、思考を促す
- 情報提供型 : 同意見や反対意見などの情報を提供し、思考を深める

### 授業づくりの手立て (「き」学習スキル参照)

授業の形態やルールを決め、子供たちの授業に対する姿勢を確認しましょう。

- 学習形態 : 一斉学習・グループ学習
- 座席 : コの字型・対面型
- 聞くためのルール : 相手を見て、うなずきながら聞く
- 話すためのルール : 場に応じた声の大きさや速さで話す 相手を見て話す

## ば 板書で子供の思考の足跡を！

授業の板書は、1時間の授業における「課題」と「成果」が視覚的に表れるものにするによって、子供が授業で分かったこと、できたことを振り返りやすくなり、次時への意欲をかき立てることにつながります。また、板書の検証によって、教師の授業力向上につながります。PDCAサイクルを意識し、板書のスキルアップにつなげていきましょう。

### PDCAサイクルによる指導改善

板書計画で授業での子供たちの調べや考えを位置づけ、実際を検証し次時へつなげていきましょう。

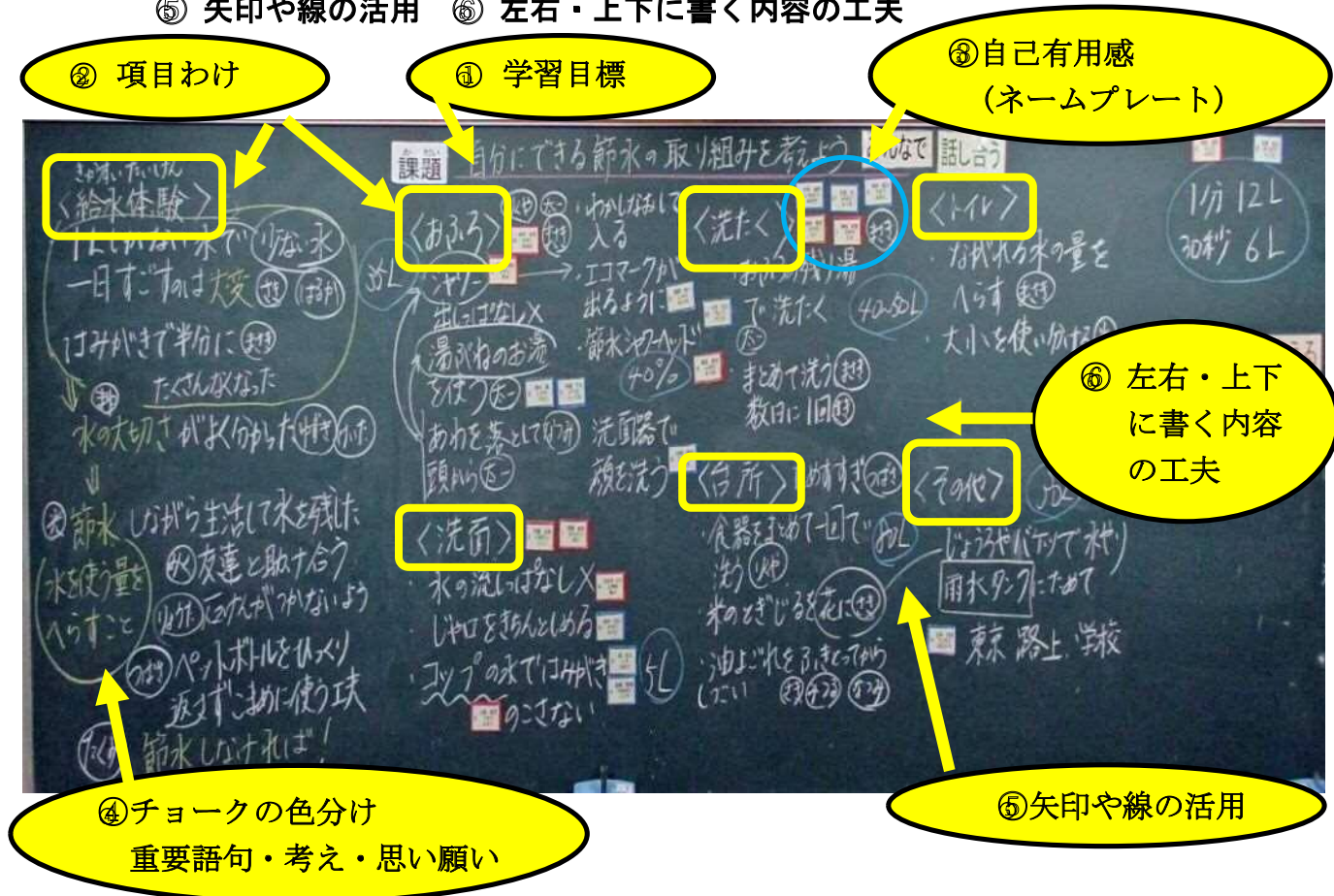
- P** 実際の授業を想定した板書計画の立案
  - ・ 構造的な児童生徒の思考
  - ・ 適切なスペース
  - ・ 多様な情報量 等
- D** 授業実践
  - ・ 全教科での実践
  - ・ 全職員の意思統一 等
- C** 事後検証
  - ・ 計画と実際の検証
  - ・ 課題の洗い出し 等
- A** 課題克服に向けた実践
  - ・ 日常授業での継続的实践 等

### 構造的にあらわす工夫

子供たちが調べたことや考えの違いや関係性が分かるように構造的に板書することで、何が明らかになり、何が問題なのか明確にし、次時へ子供たちの問題意識がつながるようにしましょう。

#### 構造的な板書の工夫

- ① 学習目標
- ② 項目わけ
- ③ 自己有用感
- ④ チョークの色わけ
- ⑤ 矢印や線の活用
- ⑥ 左右・上下に書く内容の工夫





## た だれもが「分かる」「できる」授業を！

子供たちが授業に主体的に取り組めるようにするためには、「分かった」「できた」という充実感を覚え、自分自身を肯定的にとらえる気持ち（自己有用感）を育むことが大切です。そのためには、学級の中の全ての子供たちにとって分かりやすい授業を行う「ユニバーサルデザインを意識した授業」と、コミュニケーション活動を確保する「参加型学習」を推進しましょう。

### ユニバーサルデザインを意識した授業

#### <見通しをもたせる工夫>

- 授業のはじめに、学習する内容の進め方について全体的な見通しを掲示する
  - ・ 1時間の学習の流れを、黒板の同じ場所に板書
- 授業の進行場面がわかるようにする
  - ・ 授業の流れを板書した横にマグネットを付けて移動

#### <伝達方法の工夫>

- 指示・伝達事項は、視覚化・細分化して提示する
  - ・ 導入での具体物の提示、ICT等の活用
  - ・ 1指示1動作
- 具体的な表現で伝える
  - ・ 「ちゃんと歌いましょう」→「大きな声で姿勢を正して歌いましょう」



#### <授業への参加を促す工夫>

- 「手助けしてもらえると」の安心感を与える
  - ・ 助言を受けやすくするために、わからないときのハンドサインを活用
- 集中して取り組めるように配慮する
  - ・ 学習に関係のない掲示物を外したり、カーテンを閉めたりするなど視界に配慮

#### <学習課題への取り組みを促す工夫>

- 達成感を味わわせる
  - ・ 課題を細分化し、易しい内容から難しい内容へとスモールステップ化
  - ・ 学習の進め方や段取りがわかりやすくなるようにワークシートを工夫

### 「参加型学習」の基本モデル

#### ■ 導入

- ・ 多様な考えを引き出す課題(共通体験等)設定
- ・ 小グループ(3～4名)で活動



#### ■ 展開(活動)

- ・ 意思決定を伴う共通体験や作業的な学習(三～四つの選択肢に順位を付ける「ランキング」、写真を使って意見を出し合う「フォトランゲージ」、疑似体験を経て意見交換をする「シミュレーション」等)



#### ■ 終末(ふり返り)

- ・ 思考の跡を振り返り、意見交換をする
- ・ 多様な考えにふれ、認め合う

各学校や市全体において、授業づくりで大切にすべきことを教員が共通理解したうえで授業改善に取り組むことで、義務教育9年間を通して子供たちの学力定着が図られていくと考えます。

# 授業アドバイスシート

## 【小学校国語①】

～学力・学習状況調査から見える 押さえるべきポイント～

◇日常で活用する力をつけられる漢字学習の取組を工夫しましょう。

これまでの小学校調査における漢字の読み書きの愛知県の正答率

平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 24 年度	
・保護する	97.5%	・混雑する	92.8%	・慣れる	95.1%	・建築する	86.3%
・承知する	89.1%	・移る	90.6%	・目次	94.2%	・独立	90.1%
・勢いよく	72.1%	・採集する	75.5%	・清潔	95.2%	・許す	94.3%
・なげる	79.8%	・びょういん	72.5%	・ひさしぶり	77.2%	・いしゃ	79.8%
・よぼうする	60.0%	・さんせい	79.9%	・ぎじゅつ	68.5%	・たいよう	83.3%
・おうふくする	57.3%	・はこぶ	76.3%	・へんか	88.3%	・ぬの	89.8%
愛知 76.0%		愛知 81.3%		愛知 86.4%		愛知 87.3%	
全国 78.9%		全国 83.6%		全国 89.0%		全国 88.8%	
差 -2.9 ポイント		差 -2.3 ポイント		差 -2.6 ポイント		差 -1.5 ポイント	
平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
・券	98.4%	・標識	90.1%	・招く	96.6%	・快晴だ	75.3%
・子孫	79.0%	・街灯	85.2%	・信念	94.3%	・貯金する	97.5%
・採集する	62.7%	・勢い	71.6%	・承知した	91.1%	・省く	78.7%
・やく	71.5%	・さら	97.8%	・あびる	48.1%	・たねをまく	84.3%
・ていしゃ	41.7%	・いわう	56.2%	・鳥のす	71.6%	・したい	72.8%
・もうける	49.6%	・よぼうする	73.8%	・びょういん	70.3%	・そうだんする	59.1%
愛知 67.2%		愛知 79.1%		愛知 78.6%		愛知 78.0%	
全国 69.0%		全国 81.1%		全国 82.6%		全国 80.7%	
差 -1.8 ポイント		差 -2.0 ポイント		差 -4.0 ポイント		差 -2.7 ポイント	

平成 28 年度調査では、漢字の読み書きにおいて全国の正答率と差が見られます。

(「快晴」 -4.0 ポイント、「そうだんする」 -5.1 ポイント)

文脈に合わせて、漢字を正しく書けるようにすることは、愛知県が抱える大きな課題の一つです。次ページ以降には、日常で活用する力をつけられる漢字学習の取組について、指導のポイントをまとめました。

◆日常で活用する力をつけられる漢字学習の取組を工夫しましょう。

<ポイント⑤>

### 「考えて覚える」漢字練習を行う

・機械的に繰り返し書くだけの練習では、定着しづらく、漢字に対して苦手意識をもつ子どもたちも少なくありません。楽しみながら漢字にふれる場を設定し、子どもたちが主体的に漢字学習に取り組むような指導に努めましょう。

#### 段階的な漢字指導

低学年・・・漢字の字形と具体的な事物（実物や絵）とを結び付け、漢字に対する興味や関心を高めましょう。

中学年・・・漢字のへん、つくりなどの構成を教え、漢字のもつ意味を考えながら使うように指導しましょう。 **取組の例**

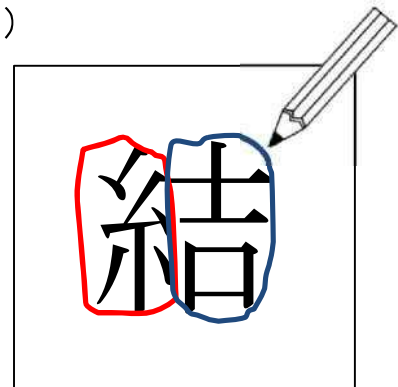
高学年・・・漢字のもつ意味を正しく理解させ、同訓異字や同音異義語に注意して使うように指導しましょう。

#### 取組の例

【部分に着目し、全体の構成を覚える】（中学年～）

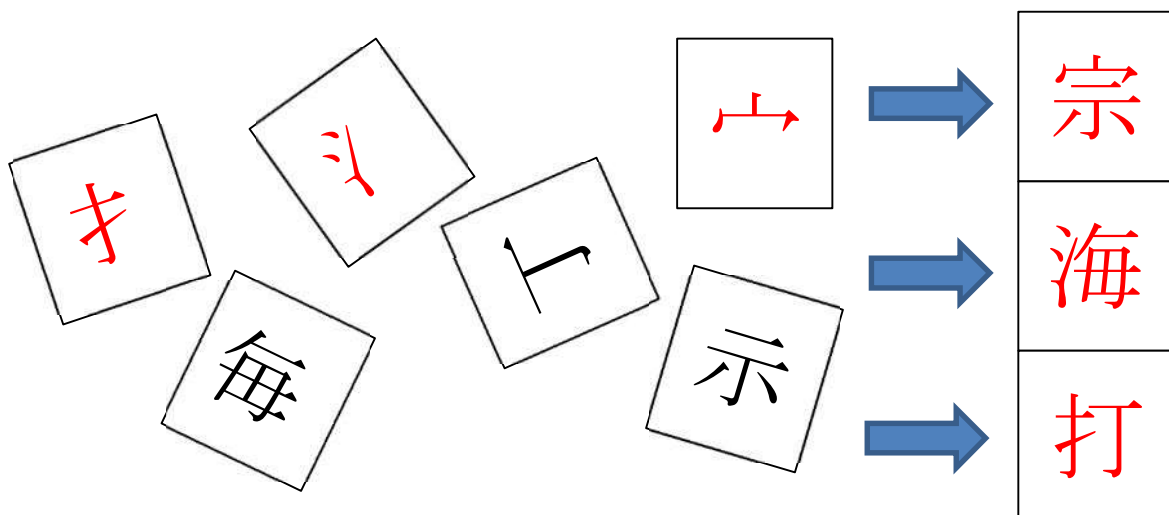
1 部分（形）を意識させる。

- ① 部首に赤○で囲ませる。
- ② それ以外のまとまりを青○で囲ませる。



2 楽しみながら漢字を覚えさせる取組①

#### 漢字カルタ



※ 組み合わせさせた漢字を読み上げさせることで、音を耳で覚えることができる。

③ 楽しみながら漢字を覚えさせる取組②

漢字計算

計算問題の例（中学年）

- ① 

田
---

 + 

月
---

 = 

答：胃
-----
- ② 

言
---

 + 

五
---

 + 

口
---

 = 

答：語
-----
- ③ 

角
---

 + 

刀
---

 + 

牛
---

 = 

答：解
-----

計算問題の例（高学年）

- ④ 

まだれ
-----

 + 

イ
---

 + 

寸
---

 = 

答：府
-----
- ⑤ 

半
---

 + 

りっとう
------

 = 

答：判
-----

最初は、まとまりを意識できるような漢字の部分（形）を使って、漢字が完成できるように作成する。

慣れてきたころに、「にんべん」や「まだれ」といった部首の名前に移行すると、より部首が意識できる。

部首を色分けすることで、視覚的に効果的

※ できた漢字の意味をとらえさせ、その漢字を使った熟語を作らせる。（高学年）

- ⑥ 

しめす へん
-----------

 + 

あに
----

 = 

答：祝
-----

 → 

祝	日
---	---



## <ポイント②>

### さまざまな場面で、既習漢字を積極的に使う意識をもたせる

・授業だけでなく、作文、日記、連絡帳等、様々な書く活動において、既習漢字を積極的に使うよう指導しましょう。子ども同士で書いたものを読み合い、正しく使用しているかどうか評価する活動を取り入れたり、教師が朱書きを入れたりなど、意識化を図ることが大切です。そして、日常生活で活用できたことに対して、認めたり価値付けをしたりすることで、子どもたちに自信をもたせ、読み書きの確かな定着へつなげていきましょう。

## <ポイント③>

### 言語環境を整え、語彙を広げる

・辞書を引く習慣を身に付けさせる。

漢字を習得し、語彙を広げるには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を身に付けさせることが大切です。そのためには、必要なときにいつでも辞書が手元にあるように言語環境を整え、積極的に辞書を活用させましょう。

・身近に本がある環境を整える。

児童質問紙での「読書は好きか」の問いでは、肯定する児童は、73.0% (H27年度 70.8%) とあります。読書環境が整うことで、優れた表現や様々な語彙に触れることができます。身近に本があり、児童がすぐに手に本を取ることができる環境をつくりましょう。

# 授業アドバイスシート

## 【小学校国語②】

～学力・学習状況調査から見える 押さえるべきポイント～

### ◇「書く活動」をいろいろな場面で取り入れましょう

#### 実態

- 「授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた児童は全国に比べ少なくなっています。
- 「感想文や説明文を難しいと思う」と答えた児童は、63.6%（全国 60.4%）、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う」と答えた児童は約6割です。
- 「解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力したか」の問いでは、「最後まで努力した」は全国に比べ、やや少なくなっています。

#### 対策

書くことに抵抗感をなくす取組を心がけましょう。

- ① 普段から書く活動を取り入れる。
- ② 基本的な書き方を指導し、根拠を明確にした文章など文章内容の質を高める。

目的や意図に応じて、表やグラフを基に、自分の考えを書く力を育てる指導のポイントをまとめました。

## <ポイント>

基本的な書き方を指導し、根拠を明確にした文章など文章内容の質を高める

・書くことに抵抗感をなくすように、書くことの見通しをもたせる指導を行うように努めましょう。次の①から③の三つの点に注意して指導しましょう。

### 取組の例

- ①何のために書くのか・・・目的意識、相手意識をもって
- ②どんな文章を書くのか・・・文章の内容、種別を選択して（文章構成）

目的意識をもたせる

目的や意図を明確にして、活動報告文を書くことが大切です。



文章の種類と特徴について確認し、文章全体の構成の効果を考えることが大切です。

#### 調査報告文の構成例

- 【始め】 調査の目的や方法
- 【中】 調査の結果
- 【終わり】 調査の結果から考えたことや調査後の感想

#### 活動報告文の構成例

- 【始め】 活動の目標
- 活動計画・活動内容
- 【中】 活動の成果と課題
- 【終わり】 解決方法

調査報告文や活動報告文など文章の種類によって、文章全体の構成は違うんだね。



活動報告文では、実際に活動したからこそ気付いた成果や課題、課題を解決するための改善策が書けるね。

文章の種類によっていくつかの構成例を示す。

- ③どのように書くのか・・・文章を書くための段階、指導過程から考えて

図表やグラフなどを用いて、課題について読み手に伝わるように記述するために



5月と11月のグラフにほとんど差がない。

5月と11月でほとんど変化がない

↓  
次の日に学校がない日に、ねる時間が2時間以上おそくなる人の割合が減っていないことは課題である。

グラフから読み取れる内容が事実かどうか検討させる。

数値や言葉を使って、課題について具体的に記述するために

○だいたいを表す言葉  
 だいたい おおむね ほぼ  
 約 およそ おおよそ  
 ○くらべる言葉  
 増える 減る 増加 減少  
 上回る 下回る 上昇 低下  
 多い 少ない 多い 大きい 小さい  
 ○数の表し方  
 ○% ○割 ○人



図表やグラフなどから読み取ったことを書く際に使う言葉を例示し、適切に使って課題について具体的に書くようにします。

類義語等を例として挙げ、自分の文章の種類では、どの言葉を使用するとよいか考えさせる。

課題を解決する方法として、自分の考えを記述するために

〈表2〉  
 ねる時刻が2時間以上おそくなる理由は何か。  
 (いくつか書えてもかまいません。)(6年1組 11名)

寝おそくまでテレビをみたり、ゲームをしたりしているから。	20人
寝おそくまで友達とメールなどをしているから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人



根拠とその理由の整合性を考えさせる。  
 (推敲や交流の段階として行うとよい)

資料から読み取れること(事実)とそこから考えられること(意見)をしっかりと分けさせてから、記述させる。

課題の根拠や理由となる図表やグラフなどを基にして、課題とその解決方法について自分の考えをまとめ、それらを用いながら書くようにします。

表現や文章の形式など、どう伝えると自分の意見や考えが読む人により分かりやすく伝わるかを児童に考えさせ、文章の質を高められるように系統的・継続的に指導することが必要です。



# 授業アドバイスシート

## 【小学校算数】

～学力・学習状況調査から見える 押さえるべきポイント～

◆言語活動の充実を図る中で、

名称・用語、公式やきまりを活用する場を大切にしましょう。

実態

- 「算数の授業で公式やきまりを使うとき、そのわけを理解するようにしていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は約8割となっています。
- 「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」という質問において、「解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」と回答した児童が約3割となっています。

対策

- ① 学習指導要領で扱われている名称・用語をおさえ、授業で用いましょう。
- ② 既習の公式やきまりを自分の考えの根拠に積極的に用いる態度を養いましょう。
- ③ 問題を解くに当たり、必要な公式やきまりを判断・選択する場を設けましょう。

【B②】(2) 40m走のタイムと示された式をもとに、40mハードル走の目標タイムを算出する】設問について、 $8.1+0.4\times 4$ と立式できたものの、34（秒）と誤答する本県の児童の割合が非常に多く見られました。計算の順序に対する理解が不十分な児童が比較的多いと言えます。

次ページ以降に、言語活動の充実を図る中で、計算の順序についての定着を図るための授業アイデア例を示します。

◆ 計算のきまりを意識した算数指導に心がけよう

<ポイント①>

**誤答例を利用しよう**

- ・ 四則の混合した式や（ ）を用いた式の計算に対する誤答例に対して、計算のきまりを根拠にして、誤りの箇所を説明する。

**取組の例①**

**計算のまちがいを見つけよう**

【児童用ワークシート】

**【計算のきまり】**

- ① 計算はふつう左から順におこなう
- ② ×、÷は＋、－より先に計算する
- ③ ( )があれば、( )の中を先に計算する

かずやくんは、つぎの3つの計算問題をすべてまちがえてしまいました。  
上にある【計算のきまり】に書いてあることばをりょうして、かずやくんが  
どのように計算をまちがえてしまったのかをせつ明しましょう

1  $6 + 2 \times 5 = 40$

2  $500 - (150 + 80) = 430$

3  $72 \div 3 - 4 \times (2 + 3) = 100$

## <ポイント②>

### 計算のきまりを使って、問題づくりをしよう

- ・ パン屋（例）で何種類かの品物を買う場面において、与えられた式の意味を考えたり、計算のきまりを活用し、何種類かの品物の代金を求める問題や支払いの際のおつりを求める問題作りをする。

### 取組の例②

#### 買い物のぼめんでもんだいづくりをしよう

【児童用ワークシート】

【あいちベーカリー メニュー表】

◆ パン類

- あんパン ... 90円
- クリームパン... 100円
- メロンパン ... 120円
- カレーパン ... 150円
- ホットドッグ... 180円
- サンドイッチ... 200円

◆ ドリンク・デザート

- 牛乳 ... 80円
- コーヒー牛乳 ... 85円
- オレンジジュース... 110円
- いちごタルト ... 70円
- ヨーグルト ... 95円
- 自家製プリン ... 130円

あやのさんは、上のパン屋のメニュー表から、つぎのような式を立てました。それぞれの式は何を表しているかをせつ明しましょう。また、その式の答えをもとめましょう。

1  $150 \times 3 + 70$

2  $500 - (180 + 85 + 130)$

3  $(120 + 80) \times 3$

あやのさんのように、計算のきまりをつかって、上のパン屋のメニュー表から問題作りをしましょう。また、作った問題を友達同士でとき合いましょう。

<ポイント③>

式の意味を考え説明しよう

- ・構成された図形と式を関連付け、式の意味を論理的に説明する。

取組例③

三角定規を敷き詰めて正三角形ができた理由を、式を用いて説明する。

三角定規を2枚使って、同じ長さの辺をあわせて、下の3種類の図形をつくりました。

A 正三角形

B 二等辺三角形

C 四角形



これらの図形の中から1種類を選んで形をつくります。①、②、③のそれぞれの角が1つの点のまわりに集まるように、選んだ図形を並べていくと、どのような形ができますか。

① Aの正三角形を並べて、どのような図形ができるか確かめる。

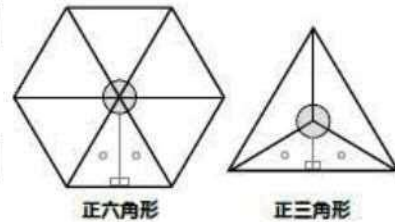


①の角が1つの点のまわりに集まるようにAの正三角形を並べていくと、6つで、正六角形ができました。

② Bの二等辺三角形を並べて、どのような図形ができるか確かめる。



実際に並べてみると、3つで正三角形ができました。



③ Bの二等辺三角形3つで、正三角形ができた理由を式を用いて論理的に説明する。



Bの二等辺三角形では、どうして3つでぴったりできたのでしょうか。式を使って説明できませんか。



$360 \div 120 = 3$ だからです。



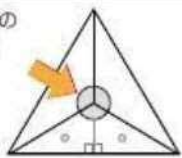
なぜ  $360 \div 120 = 3$  なのですか。



$360 \div 120 = 3$ はどのようなことを計算しているのかを説明しましょう。



360は、ここの角の大きさのことです。



120は、②の角の大きさです。

式の数値と四則の意味をそれぞれ丁寧に確認していきたいです。



$360^\circ$ を今まで学習した言葉で説明できますか。

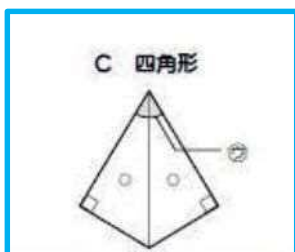


$360^\circ$ は1回転した角の大きさです。

単に与えられた課題と式からその式の意味を考えるだけでなく、活動から生じた式について、その式の意味を考察し、論理的に説明する学習過程に意義があると考えます。



式の意味を基に、Cの四角形でもぴったり並べて図形をつくることができるか考える



具体物は使わず、式の意味の考え方を基に話し合わせましょう。

④ ③で明らかになった式の意味を基に、Cの四角形でもぴったり並べて図形をつくることができるか考える。



それでは、Cの四角形でもぴったり形がつくれるのかな。

◎の角は60°だから、 $360 \div 60 = 6$ でわり切れます。Cの四角形では6つでぴったりつくれそうだね。



明らかになった式の意味を他の場面に適応し、説明する場を設けることが大切です。

<参考>平成28年度授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程研究センター）